

市民工学概論現地見学会報告  
(2013年6月1日, 明石海峡大橋)

一流のシェフになるためには一流の味を知らなければならない——明石海峡大橋は橋長 3,911m, 中央支間長 1,991m を誇る世界最大の吊り橋である。大阪湾と播磨灘をつなぐ明石海峡は、瀬戸内海を縦貫する国際航路の要衝であるとともに、狭隘な地形の影響により最大 4.5 m/s もの潮流が発達する海の難所でもある。1988 年 5 月に着工されたこの長大橋は、メインケーブル架設中の 1997 年 1 月 17 日に発生した阪神淡路大震災に耐え、約 10 年の歳月をかけて 1998 年 4 月に竣工した。水深 60 m の海底に最大 12 万トンの鉛直荷重に耐えうる基礎を設置して主塔を立ち上げ、耐用年数 200 年を目指してケーブル内送気乾燥システムによる新しい防食維持管理技術を導入するなど、世界最高水準の橋梁技術、建設技術の粋を集めたモニュメントである。本四高速および関連企業 OB の方々の案内により併設された橋の科学館において技術的な説明を受けたあと、舞子側 1A アンカレイジから内部に入り、海面上約 80 m に設置されたグレーチング床板の作業通路を約 1 km 歩き、海面上 300 m に位置する 2P 主塔最上部に登った。勇壮麗美な神戸・淡路の景観を楽しみ、先達の傑作である 3 径間 2 ヒンジ補剛トラス吊橋を楽しみ、土木工学の醍醐味を堪能した半日であった。この世界最高の料理の味を知った土木技術者の卵たちがどんなシェフに成長していくのか。楽しみは尽きない。(内山雄介)



写真：2P 主塔最上部での集合写真。